

マトリックス

荷物の場所簡単検索

システム開発 物流施設の作業速く

システム開発のマトリックス(大阪市、辻義光社長)は物流施設の中で荷物の置かれた場所をパソコンで簡単に検索できるシステムを開発した。

荷物に取り付けた非接触式のICタグ(荷札、写真)を離れた読み取り機で認識して場所を特定する。物流施設で運ぶ荷物を確認する作業を速め、集配にかかる時間を削れる。

新システムはまず物流施設の中に線引きした区画を設け、タグを付けた



荷物を配置する。荷物を出荷する際に施設の中でタグが発信する電波を読み取り機が受信し、システムのサーバーに位置情報を発信。作業員が位置を特定して荷物を運び出す。

位置を検索した時だけ電波を発信する特殊なタグを採用し、電池消耗を従来の五分の一度にまで抑えた。

荷物が常に入れ替わる物流施設では、荷物の場所を把握するのが難しく、出荷の都度探す手間がかかっていたという。

新システムを利用すれば物流施設を探し回る手間が省け、出荷作業を円滑に進められる。

システム導入費用は十区画で、タグと専用ソフトウェアを含め二千万円。初年度二億円の売り上げを目指す。